



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 日水製薬株式会社
 コード番号 4550 URL http://www.nissui-pharm.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 小野 徳哉
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 谷津 精一 TEL 03-5846-5611
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	9,513	—	1,170	—	1,496	—	1,009	—
28年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 1,624百万円 (—%) 28年3月期第3四半期 ー百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	45.08	—
28年3月期第3四半期	—	—

(注) 前第3四半期連結累計期間は四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	34,419	31,613	91.8	1,411.60
28年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 31,613百万円 28年3月期 ー百万円

(注) 前会計年度は連結財務諸表を作成していないため、平成28年3月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	20.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,000	—	1,755	—	1,800	—	1,150	—	51.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、平成29年3月期第2四半期より連結決算へ移行いたしました。前会計年度は連結財務諸表を作成していないため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	22,547,140株	28年3月期	22,547,140株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	151,756株	28年3月期	151,524株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	22,395,540株	28年3月期3Q	22,395,866株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、平成29年3月期第2四半期より連結決算へ移行いたしました。前会計年度において四半期連結財務諸表及び連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期及び前期末との比較分析は行っていません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安の進展や投資家のリスク回避姿勢の後退を受けて日経平均株価は上昇基調を維持し、11月の米国次期大統領の選挙結果を受け先行きの成長率の高まりを期待する傾向が増加する等、緩やかな回復基調で推移いたしました。内閣府の月例経済報告(平成28年10~12月実施調査)に拠れば、海外経済では、中国を始めとするアジア新興国や資源国等における景気の下振れリスクや英国の欧州連合(EU)離脱問題を巡る不透明感の高まりなど、金融資本市場への影響に留意が必要な情勢が続いております。

当社グループでは、経営方針として、「長期的に持続的成長をする企業」を掲げております。このビジョンの実現に向けて、2016年度を起点とする中期経営計画に基づき、既存事業の育成と新規事業推進による新たな価値の創出を目指しております。品質向上への追求を続けるとともに、時代の求める魅力ある個性的な製品を提供する企業を目指して、重要課題への取り組みを推進いたしました。

<中長期的な経営戦略の推進>

- 将来性・・・成長分野への新技術開発のための開発的投資(資本参加などのM&A・提携・委託)
- 拡張性・・・市場拡大のための戦略的投資(市場開拓・製品及びサービス開発)
- 収益性・・・製造設備強化への効率的投資(業務品質向上・事業ポートフォリオ適正化)

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間の売上高は95億13百万円となりました。利益面におきましては、営業利益は11億70百万円となりました。経常利益は、投資有価証券売却益の計上などにより14億96百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億9百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメント別の状況は、概ね次のとおりです。

<臨床診断薬事業>

売上高は43億24百万円、営業利益は8億24百万円となりました。

当事業においては、「感染症管理や精度管理システムの水準向上に貢献すべく、基幹病院や検査センターで競合他社に勝る存在価値の向上を実現する」との戦略目標を掲げ、当社の強みを前面に押し出した戦略を推進するために、全国規模によるKAM(重要顧客管理:Key Account Management)の取り組みを展開し、国立高度専門医療センター・病院、大学機関、検査センターなどにおけるニーズ深堀だけでなくKOL(有力施設:Key Opinion Leader)とのコミュニケーション連携など、CRM(顧客関係構築:Customer Relationship Management)に基づいた営業活動に取り組んでおります。細菌感染症や敗血症診断などに用いるプロカルシトニンだけでなく、急性心筋梗塞の早期診断の高感度トロポニンI(バイダス アッセイキット 高感度トロポニンI)をきっかけとした、シスメックス・ピオメリュウ株式会社の自動蛍光免疫測定装置 バイダスシリーズの引き合い数も増加傾向となりました。また、上期に発売を開始した偽膜性大腸炎等のクロストリジウム・ディフィシル感染症の迅速診断キット GEテスト イムノクロマト-CD GDH/TOX「ニッスイ」の拡売に向けた活動を行いました。

なお、本事業においては、11月より全自動化学発光酵素免疫測定装置用試薬「AIA-パック CL ミオグロビン反応試薬」、自動酵素免疫測定装置バイダス・ミニバイダス専用試薬「バイダス アッセイキット “高感度トロポニンI”」、「ジゴキシン」、「HCV抗体」」、全自動迅速同定・感受性測定装置ライサス®「ニッスイ」専用試薬「グラム陽性球菌用標準プレート ライサス®「ニッスイ」RSCP4(コンピプレート)、RSMP3(MICプレート)」を上市し、12月よりライサス®の次世代型後継機「全自動迅速同定・感受性測定装置ライサス®S4」の販売を開始いたしました。

<産業検査薬事業>

売上高は23億62百万円、営業利益は6億46百万円となりました。

当事業においては、「微生物検査や食品安全検査を実施する顧客企業の安全管理上の問題を解決する提案活動を通じて、顧客企業の競争力の向上に貢献する企業との評価を確立する」との戦略目標を掲げ、微生物検査のパイオニアとしての存在価値の向上を図っております。DAC(国内大規模グループ企業: Domestic Affiliated Company)への戦略的活動を展開するとともに、次世代を見据えた再生医療分野への取り組みとして、iPS細胞・間葉系幹細胞・脂肪細胞などの各種細胞を迅速かつ大量に培養する新技術の開発を進めております。上期より引き続きDAC攻略を推し進め食品加工や製薬企業(施設)を中心に、産業向け微生物検査の生培地(ニッスイプレート・ニッスイ分画プレート)、菌数測定用乾式簡易培地コンパクトドライ®、食品アレルギー物質の簡易迅速検査試薬(FASTKIT、FAテスト)の販売が堅調に推移いたしました。また、上期に発売を開始したマイコプラズマ遺伝子検出キット「Myc Finder」が、当初販売計画を超える好調な結果となりました。海外展開では、菌数測定用乾式簡易培地コンパクトドライ®の販売が好調で大幅な伸びをみせるとともに、中国市場などの新規開拓にも注力しております。日本水産株式会社グループNGLC(日本水産株式会社グループの重要戦略の審議・決議機関: Nissui Global Links Conference)との連携や、食品衛生の国際基準(米国:FDA、欧州:ISO)の認証拡大に向け、積極的に取り組んでおります。

<医薬事業>

売上高は21億2百万円、営業利益は3億32百万円となりました。

当事業においては、少子高齢化の進展や生活習慣病の増加などの疾病構造の変化、QOL(生活の質: Quality Of Life)の意識向上に伴う消費者の健康に対する関心の高まりに則した製品展開及び施策活動を行っております。医薬ソリューション営業部では、当社の強みのある天然素材を活かした医薬品や健康食品向け肝末原料やコラーゲン原料の拡販を図るとともに、ドラッグチャンネル・通信販売事業者・訪問販売事業者等の新規販売ルートへプライベートブランド向けODM製品や自社製品の開発強化に引き続き注力しております。販売子会社の日水製薬医薬品販売株式会社では、主要取引先である健康未来創造研究会の新規会員獲得に鋭意努力しておりますが、厳しい状況が続いております。既存会員店におきましては、店頭におけるPOP等の販促施策や新聞折り込みチラシによる集客施策等に重点を置くとともに、製品の情報提供からブランド力や商品認知を高める施策についても、引き続き取り組んでまいります。

<化粧品事業>

売上高は7億25百万円、営業利益は94百万円となりました。

当事業においては、お取扱店とのコミュニケーションの強化に努めるとともに、日本水産株式会社とのグループシナジー戦略の基、海洋由来成分原料「オレンジラフィー油」を活かした製品開発及びリニューアルを軸に、新規お取扱店の拡大と新規販売チャンネルの拡大を目指しております。事業子会社のニッスイファルマ・コスメティクス株式会社では、ORANGE ROUGHY SERIES(オレンジラフィーシリーズ)、mer e'clat(メールエクラ)ブランド製品の東急ハンズ等ライフスタイル提案店舗やドラッグストアなどへの販路拡大を狙いブランドマーケティングを推進しております。また、リスブランブランド化粧品への海洋由来成分原料「オレンジラフィー油」の配合製品の拡大を進め、新規チャンネルの獲得とユーザーアプローチへの戦略を推進しております。

なお、本事業においては、10月より海洋由来成分原料のオレンジラフィー油を配合したリスブランブランド製品からヘアカラートリートメント「リスブラン 釉彩(つやいろ)」(化粧品店舗チャンネル向け)、同じくオレンジラフィー油を配合したmer e'clatブランド製品からリップクリーム「メールエクラ モイストオイルインリップ」(ドラッグストアチャンネル向け)を、12月よりリスブランブランド製品から薬用美容液「リスブラン 薬用ダーマトプロテイン」、薬用クリーム「リスブラン 薬用ダーマトクリーム」の販売を開始いたしました。

なお、上記営業利益には、各事業に配賦できない支援部門に係る費用等7億26百万円が控除されておられません。

<研究開発活動等>

当社は、2016年度を基点とする中期経営計画に基づき、新たな成長分野への積極的投資の一環として、千葉大発バイオベンチャー「セルジェンテック株式会社」との共同研究を実施しております。セルジェンテック株式会社は、千葉大学大学院医学研究院および千葉大学病院未来開拓センターと共同で脂肪細胞を用いた遺伝子治療用細胞医薬品を臨床応用すべく、現在研究を進めております。直近では、再生医療等安全性確保法のもと、家族性LCAT欠損症を対象とした第一種再生医療臨床研究の実施計画について、平成28年8月8日付で承認され、現在実施中で、さらには、本技術を利用して、血友病、ライソゾーム病などの遺伝子疾患に伴う欠損した酵素の補充や糖尿病のインスリン補充への応用も進めております。当社はその検討における細胞医薬品の製造技術などについての共同研究を行っております。

再生医療用培地分野への本格進出に向けて4月から診断薬工場(結城)の増強工事を行い、11月に「再生医療用培地製造工場」を竣工いたしました。安全性が求められる再生医療製品と同様に再生医療用培地も同様の品質が必須であり、組織培養用培地の製造施設についても研究開発を推進してまいります。

臨床診断薬事業・産業検査薬事業では、当社の得意分野である微生物分野の研究に注力し、顧客需要の高い専用製品、新たな通知法対応の製品の品揃えおよびリニューアルを実施しております。医薬事業では、原料から一貫生産をしている肝臓加水分解物の機能性表示食品制度の適用を目指して機能性評価を進めております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は344億19百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債は28億5百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は316億13百万円となりました。

この結果、自己資本比率は91.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、現時点では平成28年10月13日に公表した業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

当第3四半期連結会計期間
(平成28年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	8,396
受取手形及び売掛金	3,254
有価証券	301
商品及び製品	1,676
仕掛品	388
原材料及び貯蔵品	800
繰延税金資産	67
前渡金	35
関係会社預け金	2,644
その他	242
貸倒引当金	△41
流動資産合計	17,766
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	1,995
機械装置及び運搬具(純額)	382
土地	2,770
リース資産(純額)	79
建設仮勘定	49
その他(純額)	169
有形固定資産合計	5,446
無形固定資産	
ソフトウェア	30
リース資産	62
その他	12
無形固定資産合計	105
投資その他の資産	
投資有価証券	10,887
繰延税金資産	20
その他	236
貸倒引当金	△44
投資その他の資産合計	11,100
固定資産合計	16,652
資産合計	34,419

(単位:百万円)

当第3四半期連結会計期間
(平成28年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	1,403
リース債務	37
未払法人税等	20
賞与引当金	54
役員賞与引当金	10
歩戻引当金	22
前受金	210
その他	553
流動負債合計	2,312
固定負債	
退職給付に係る負債	1
リース債務	115
その他	376
固定負債合計	493
負債合計	2,805
純資産の部	
株主資本	
資本金	4,449
資本剰余金	5,378
利益剰余金	21,897
自己株式	△99
株主資本合計	31,626
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△13
その他の包括利益累計額合計	△13
純資産合計	31,613
負債純資産合計	34,419

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	9,513
売上原価	4,815
売上総利益	4,697
販売費及び一般管理費	3,527
営業利益	1,170
営業外収益	
受取利息	24
受取配当金	115
投資有価証券売却益	489
為替差益	0
その他	22
営業外収益合計	652
営業外費用	
支払利息	0
投資有価証券売却損	323
デリバティブ評価損	3
その他	0
営業外費用合計	327
経常利益	1,496
特別損失	
固定資産売却損	0
固定資産処分損	0
投資有価証券評価損	86
特別損失合計	88
税金等調整前四半期純利益	1,407
法人税、住民税及び事業税	312
法人税等調整額	85
法人税等合計	398
四半期純利益	1,009
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,009

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	1,009
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	614
その他の包括利益合計	614
四半期包括利益	1,624
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,624
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	臨床診断薬 事業	産業検査薬 事業	医薬事業	化粧品事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	4,324	2,362	2,102	725	9,513
セグメント利益	824	646	332	94	1,897

b. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,897
全社費用(注)	△726
四半期連結損益計算書の営業利益	1,170

(注) 全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。